

川崎市総合計画市民検討会議 第3回全体会 意見シートのまとめ

分類	ご意見
<p>会議の進め方について</p>	<p><討議1（今後の会議の進め方について）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民検討会議・有識者会議等の性質の理解不足があった。 ・ 市の職員からテーマと未来のつながりについて説明があり、取組内容の方向性が見えた。 ・ 総合計画の検討では、施策に具体性を持たせた方が市民に理解されやすい。また、何を優先に実施するか共有することが重要である。 ・ 総合計画の内容は、長々とした漠然として表記・記載ではなく、キャッチーでシンプルなメッセージにしないと、市民に伝わらない。 ・ 目標を明確に示すのであれば、例えば「子育て・教育」の基本計画のメッセージは、「人員ゼロとともに『実感ゼロ』を目指した保育環境の整理」などとしたほうがよい。 ・ 有識者会議との合同会は早く実施し、有識者からも市民会議に参加してもらってはどうか。有識者会議への参加が素案完成前では案の変更は難しいのではないかと。 <hr/> <p><討議2（グループディスカッション成果の共有）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間不足であった。 <hr/> <p><討議3（グループディスカッション「文化・スポーツ・都市イメージ」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区の市民検討会のように、最初に各自が意見・考えを発信できる場があり、議論の中で他の委員と意見のすり合わせができれば、参加に対する納得感が得られる。 ・ メンバーで話し合いつつ、進行できた。 ・ 発言が特定の委員に偏りすぎていたので、進行役の方は配慮をお願いしたい。 ・ 昼食を挟んで議論しても良かった。
<p>文化・スポーツ・都市イメージ分野について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎市が全国・世界から着目される断トツのモデルが1つ、2つ実現できればよい。 ・ 川崎がどう世界に進出していくかを多角的な分野・視点で深く捉え、パブリックコメントを活かす方法を考えるべき。 ・ 「断トツ」は良いので「音楽のまち」を「クラシックのまち」など、具体的な内容を絞り込んでどうか。 ・ 川崎モデルを企業と共に作ってアピールすることが重要である。一案として、「公害」のまちから「環境最先端」都市への変化をアピールするべき。 ・ 「〇〇のまち」という都市イメージもいいが、「〇〇の人がいる」と人材に着目するのも重要で、抜きん出た人材に場と資金提供するべき。 ・ 中学校におけるOB会の推進や、高校生・大学生の企業人との交流によって、人の絆による伝統化・継承化を深めるべき。 ・ 研究者・大学が多いことから、川崎の魅力作りのために、世界にもアピールできる共同研究を育てて欲しい。 ・ 川崎は東京・横浜の中間点であり、2020年オリンピック・パラリンピックは絶好のビジネスチャンスなので、安全・安心、高齢化社会に向けて自信をもって行政を進めてほしい。 ・ PRや発信も大切だが、それを受ける側のレベルを上げることも必要である。発信者と受信者の温度差が感じられるので、埋められる様にしていきたい。 ・ 市のイメージを伝えるには市内の事を知らないとなかなか難しいので、積極的に情報収集したい。 ・ 川崎の良い点が幅広いので、どう取りまとめて、市民にPRしていくか、具体的に考えたい。 ・ 負のイメージは正のイメージアップを少し崩してしまうので、負のイメージは早期に解決努力することで、ピンチをチャンスに変えることが重要。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の支えあいが重要と指摘されているので、住民が地域に関心を持つことが第一歩。 ・ 地域的な課題に関する政策は市民に近いところで決められるように、川崎市の行政を区に分権していくことが必要。